

論壇

前回は景気失速長期化

この10月に消費税の税率が8%から10%に引き上げられる。消費税を引上げることにについては賛否両論あるが、社会保障費への財源確保としてある程度の増税は仕方ないと考えている人が多いだろう。欧州諸国では消費税率が20%を超える国が多い。日本の消費税率が8%であることが説明すると、そんなに低いのかと驚く人も多い。

さて、消費税の税率引き上げで心配なのは、その影響で景気が失速することである。前回、5%から8%に税率を引き上げた時に

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

は、日本の景気は大きな影響を被った。当初想定した以上にそのマイナスの影響が長期化したのだ。いろいろな国の経験を見ると、消費税の引き上げの悪影響は数カ月という比較的短い期間で終息することが多い。その意味では、増税が景気に長期間悪影響を及ぼした日本の経験は特異ではある。

つては不幸な偶然であった。いずれにしても、日本の国民は消費税率の引き上げに非常に敏感になっている。引き上げの前に駆け込みで消費が増え、引き上げ後にはその反動で消費が大きく落ち込むという現象が見られる。特に、自動車や住宅のような耐久消費財でそうした傾向が強い。

「消費税10%」の影響

前回の引き上げが長期的な影響を及ぼした背景にはいくつかの理由が考えられる。よく言われることは、消費税とは関係ないが、たまたま同じ時期に中国経済が大きく失速して、日本経済が大きな影響を受けたということだ。中国経済の失速が消費税の引き上げのタイミングと重なるという日本にと

今回は、政府もこうした経験を踏まえて、耐久消費財の駆け込み需要を抑える方策をとっている。消費税が上がった後に自動車や住宅を購入した方が得になるよう

要が特に増えているということはなさそうだ。駆け込み需要が低調であれば、それに応じて反動の需要減少も大きくないと期待される。

引き上げ率、大きな違い

消費税の上げ幅についても、前回と今回では大きな違いがある。5%から8%まで3%引き上げるのと、8%から10%まで2%引き上げるのでは、大きな違いはないと考える人もいるかもしれない。しかし、5%から8%への引き上げは60%の引き上げ率である(引き上げ幅の3%は、元の税率である5%に対して60%ということになる)。これに対して、8%から10%への引き上げは、25%の引き上げ率となる。引き上げ率でみると、大きな違いがある。

今回の引き上げ率が価格に及ぼす影響は、前回の引き上げ率に比べると相当程度小さくなると思われるだろう。それに加えて、食品などで税率を低く抑える軽減税率の制度が導入される。専門家の間では評判の悪い制度ではあるが、当面の消費への影響という意味では、増税の影響を小さく抑える効果がある。

いずれにしても、10月には消費税が10%に引き上げられる新時代を迎えることになる。平成元年(1989年)に消費税が導入されて3%の税率が適用された。それから30年ほどで消費税はいよいよ2桁時代に入ることになる。その先の展開について今の段階で予想するのは難しい。とりあえずは10%への移行で大きな混乱が起きないことを願っている。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。